



自衛隊栃木地方協力本部

宇都宮市で3年ぶりの自衛隊グリーンフェスタ開催



自衛隊栃木地方協力本部（本部長 梶1陸佐）は5月29日、宇都宮市街地中心部のオリオンスクエアにおいて、「自衛隊グリーンフェスタ2022」を3年ぶりに開催した。

これは2014年から続く栃木地本企画の最大のイベントであり、コロナ禍による中止を経て7回目の開催となった。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から以前に比べ規模を縮小したものの、当日は約830名が来場し、久しぶりの盛り上がりを見せた。

東方音楽隊による野外コンサートでは、映画音楽やサンバ、ヒットソングメドレーなどが演奏され、「元気をもらいました」「泣きそうになった」「好きな曲がかかってテンションが上がった」等の感想が聞かれた。観客が曲に合わせて手拍子し、会場が一体となる場面も見られた。

音楽演奏の他にも装備品展示や制服試着コーナーが設けられ、地本部長に加え、本イベントの支援にあたった宇都宮駐屯地所在の中央即応連隊や第12特科隊の隊員が来場者からの質問に丁寧に答えていた。自衛官募集ブースでは広報官等が説明にあたり、航空自衛隊浜松基地より支援で来ていた女性パイロットが対応する場面では「戦闘機の女性パイロットってすごいですね」と経験談等に聞き入る姿が見られた。

栃木地本は「今後も広報イベントを通じ、地域の皆様に自衛隊を身近に感じていただけるよう活動していく」としている。



高校3年生がスマートハートを体験

自衛隊栃木地方協力本部大田原事務所（所長 倉田1陸尉）は6月8日、栃木県立高根沢高等学校において、スマートハートを実施した。

スマートハートとは「凜とした心」を持って欲しいという想いを込めて、栃木地本で名付けた名称で、派遣型就業体験学習のことを指している。2013年より栃木県内の希望する高校で実施しており、自衛官が主に高校3年生に対し、基本教練体験に加え、面接等で活用できる礼儀作法のアドバイスを行っている。

当日は地本部長と共に、同校の卒業生である地神陸士長（木更津駐屯地所属）と桑島空士長（入間基地所属）が教官役として参加した。卒業以来初めての母校訪問となった二人は校長室を訪ね、自衛隊生活について先生に伝えると「ずいぶん成長したね」と声を掛けられる場面があった。

スマートハートの会場となった体育館には同校の3年生177名が集まり、16個のグループに別れて「気を付け」や「礼」などの動作や発声要領を学んだ。入室から退室までの一連の流れを練習する場面では、椅子に座る際の着眼点として「浅く腰掛けると背筋が伸び、胸を張った姿勢になる」等の説明を行った。生徒からは「説明が分かりやすく、きびきびとした動きを身に着けることができた。実際の場面でも活かしたい」といった感想が聞かれた。

栃木地本は「今後も学校との連携を強化し、地域に密着した活動を行っていく」としている。

